



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼人 杉本一男
半年間 1,200円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
0968946-005

期末闘争本格交渉へ

昭和六十年度下期の期末手当闘争は、今年から年間給付制度として新たなたたかいとしてスタートします。すでに大会決定による年

間百十万人の要求書は十月三十一日炭労から各社に提出しました。十四日に拡大中央闘争委員会を開き、第一回交渉に入り、十一月

下旬の解決を目指し本格交渉を続けています。地下産業労働者にふさわしい労働条件を目指しながら、不当にも

低額に抑え込まれている現状を打破するために全力をあげたたたかいが求められています。なお港務所は下期期末手当として五十五万円を要求、十八日から交渉に入ります。三作については十四日四十二万円を妥結しました。

総評、炭労をはじめ来賓のみならずにはご多忙のところ、本集会へご参加いただき心から感謝いたします。本集会に当たり、組合を代表して決意の一端をのべてさせていただきます。

さて、本年は三池炭鉱で働く者にとって、忘れ難いのできない三池炭鉱爆発から二十二年目を迎えました。この三池炭鉱で四百五十八人が殺され、八百三十九人もの仲間がCO中毒に冒され、まさに日本の労働災害史上かつてない大災害となりました。

三池大災害 22周年抗議集会

労働災害絶滅への決意誓う

三池大災害から二十二年を迎えた十一月九日、午後一時三十分から大牟田市市民会館で抗議集会を開き、この日二十四時間ストライキに突入した組合員と主婦会員をはじめ、来賓や各労働組合、政党、民主団体の仲間たちが参加しました。集会では、久し振りに映画「三池のたたかい」を上映したあと抗議集会に移り、集会終了後三池炭鉱所へデモ行進しました。

誠意ある和解条件を

三井の災害責任は消えず

提起から十二年を経て、十一・一〇裁判闘争は和解交渉が始まりました。三池闘争とその後の大災害を記した映画「三池のたたかい」は、援護措置を含む、被告会社側の誠意ある和解条件の提示が求められ、新たにさせるものでした。

抗議集会は、組合歌「炭掘る仲間」を合唱。田口書記長が開会のあいさつを述べ、来賓代表のあいさつをうけました(要旨別項)。午後三時十五分、犠牲者の冥福を祈って黙とうを捧げました。続いて参加団体の紹介(別項)、敬電の紹介(別項)がおこなわれ、たあと、原告団を代表して原告団



会場の一部

参加団体紹介

福岡県評。熊本県評。大牟田地評。荒尾地評。日本社会党。日本

激電紹介

福岡県労働組合評議会。参議院副議長阿貝根登。北海道夕張裁判をすめる会、北炭夕張訴訟原告団。衆議院議員多賀谷真稔。衆議院議員細谷治嘉。参議院議員小柳勇。参議院議員小野明。参議院議員松本英一。労働大学学長木原実。社会主義協会代表川口武彦。熊本県会議員酒井善為。

平の山病院。細谷治嘉。日本社会党熊本本部。自治労福岡県職員組合大牟田支部。社会主義青年同盟全国協議会。吉田アツ。五島頼子。三井化学労組大牟田支部。日本社会党荒尾総支部。三池じん肺会。福岡県労働組合総評議会。大牟田地方労働組合評議会。大牟田市職員労働組合。長谷川為美。

平の山病院労働組合。三菱高島炭鉱労働組合。日本炭鉱労働組合。労働金庫労働組合大牟田支部。荒尾地方労働組合評議会。福岡県教育組合。新日本婦人の会大牟田支部。労働金庫大牟田支店。労働金庫荒尾支店。全労済福岡県本部。坂田秀彦。

この災害で犠牲となった遺族とCO患者の苦しみや痛み、生活実態を直視し、二十二年間政府と三井鉱山に対してCO闘争をたたかい、一定の成果をあげることができました。また、まだ幾多の課題をかかえています。

責任追及と補償確立めざす闘いへ全力を

が決意表明

具体的には、内外炭の格差問題、重油関税の撤廃、相次ぐ重大災害など、石炭産業に対する社会的批判は強まっています。私達は、すでに石炭産業の安定や労働者の労働条件の改善、保安対策の強化などを旨とする諸要求をたててたたかっています。これまで以上の

闘争の一環として福岡地裁へ損害賠償請求の民事訴訟を提起し、本年秋には結審という状況の中で、さる一月福岡地裁から和解意思の打診を受け、それ以降組合民主主義を踏まえた大衆討議を経て、本年五月「和解のテーブル」について組織決定しました。

その間、被告である三井鉱山は、組合の動向や原告の分裂をタテに回答を引き延ばし、ようやく先般応答することを表明しました。

一九八五年十一月九日
三池炭鉱労働組合
組合長 中原一
三池主婦会
会長 平川弘子



三池大災害22周年抗議集会

大災害から22年、裁判提起から12年。この日、遺族・被災者の苦しみを償えと怒りを新たに、今後のたたかいを誓った。

来賓あいさつ

橋本 亮

炭労中央執行委員長
ただいま映画「三池のたたかい」を見まして、当時のことをさまざまに思い出して、悲憤に耐えられません。

第七次石炭政策の中で大災害が続出し、生命を守る保安闘争の強化が重要な課題となっています。第八次答申にむけて、一層取り組みを強めていかねばなりません。

CO裁判闘争も、和解交渉とごうたかひになりませんが、総評、炭労は最後まで支援する決意でい

魚返正臣

熊本県評副議長

一九九二年、アメリカは宇宙基地の建設を計画しています。科学の発達、技術の発展は資本主義社会では人権を合理的に犠牲にするのが、災害を繰り返しています。

炭鉱の歴史を振り返れば、資本主義の本質を見るのができません。三池のたたかいは、この抗議集会にみられるように労働者の怒りを忘れずに資本のたたかひを続けていくことだと思っています。

小島 肇

三池CO裁判弁護団

裁判闘争の現状について述べます。今年一月下旬、裁判所より和解の提案があり、弁護団は和解のたたかひも会社に対する責任追及の1つであり、原告団、組合と十分に協議してきました。

責任論については、政府調査団に参加された房村先生、また荒木先生の証言でも明らかですが、時効の問題については司法反動の中で薬種はできません。和解交渉に入りますが、原告が納得できる条件をかちとるために、一層の団結が求められています。多くの仲間

長谷川 為美

日本社会党・福岡県議

炭じん爆発から二十二年。第八次石炭政策の答申を前に災害が絶えません。私たちは労働者の生命を守る保安の確立と現存炭鉱の存続をせよとたたかひ続ける必要があります。

十一月二十五日、筑豊を守れという集会が開かれますが、炭鉱から災害をなくすために、この三池のたたかひを全労働者の怒りとして広げていく決意です。

下川 忠 範

日本共産党・福岡県委員

二十二年という苦難の生活を強いられている原告団の皆さんに心から連帯の意を表します。石炭産業の今日の荒廃は対米従属のエネルギー政策にあることはいうまでもありません。労働者の生活、生命を守るというだけでは、唯一のエネルギー源である石炭産業を守るために、困難なことですが石炭の公社会化、ひいてはエネルギー全体の国有化によって再生させるべきです。

(敬称略。不本意ですが紙面の都合でかわめて簡単な要約になりました。ご了承下さい。)